



だんだん

隠岐広域連合立 隠岐島前病院
<http://fish.miracle.ne.jp/dozen/>

1. はじめに

このたびの東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心から願います。

平成23年3月11日大地震が発生し、3月13日から21日において急遽、院長が東北に応援に出かけた事に対し、住民の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。そして心よりお礼を申し上げます。

住民の皆様も病院スタッフも島全体が静かに院長の活動を見守り、東北の皆さんの安否を願い、院長の無事帰島を願いました。

院長が無事帰島し東北の報告をうけ、隠岐島前病院は少人数ですが、次々と応援スタッフとして出かけています。

「自分たちに出来ることを、それぞれが考え協力しあって、行動に移す。」これを現実実践している。スタッフ不足でも「困っている人を応援する姿勢」「協力する姿勢」隠岐島前病院の底力を確認しました。

一住民として、一職員として誇りに感じます。

この隠岐島前病院の成長は住民の皆様の信頼によるものと確信する中、あらためてご支援頂いていることに感謝申し上げます

そして4月に医師1名が交代し、新しく3名の看護師、1名の看護補助者、1名の調理員を迎え新年度73名の職員でスタートしています。

慣れない島生活と仕事の両立ですが住民の皆様の期待に添えるようにがんばっています。

他職員と同じく遠慮なく気軽に声をかけていただきますようよろしくお願い申し上げます。

看護師の平均年齢は51歳→48歳→42歳になりました。若手メンバーの活躍をさらに期待くださいますようどうかお願い申し上げます。

看護師長 松浦幸子

今回の内容

1. はじめに
2. お世話になりました
3. 訪問看護について
4. 外来にて
5. おわりに





2. お世話になりました

このたび、3月末をもって島前病院を後にすることとなりました。

大変お世話になりました。

思い返すとあっという間の2年間でした。生活が充実すると時間が短く感じるとは聞いていましたが、島前で生活は本当に短く感じました。4年間在任された石橋先生とは大学時代に同期であり、また島前の地でとても頑張っていたとうわさで聞いていたので、島前病院赴任前は石橋先生の抜けた穴を自分がきちんと埋められるのかと心配でした。しかしその心配は杞憂に終わりました。

院長先生をはじめ、島前病院のスタッフの方々の絶え間ない笑顔と元気、前に進む力にどれだけ救われたか。そして病院に受診された方々、入院された方々やご家族からも、自分達のことはさておき私のことをいたわるような温かい言葉をかけていただいたことも多々ありました。

島後でも感じたことですが、島の方は本当に心の優しい方が多いと感じています。漁師町であるので言葉使いはきついことはありましたが、それを上回る優しさに日々癒されておりました。

一部の報道ですが都会では医療に対して様々な問題が挙げられています。それは自己中心的な考え方であったり不信感であったりだと思えますが、何れも共通するのは医師と患者さんの距離感にあると思います。私が島前で感じたことは、距離がとても近いということ。患者さんや家族の気さくさや信頼があり、また残ってしまった溝も看護師はじめスタッフの方々がきれいに埋めているのだと思っています。だから特別気を張ることなく、まるで自分の家族を治療しているような感覚で医療が出来たのだと思います。「医は仁術なり」という格言がありますが、まさにそのとおりだと感じました。

個人的には魚釣りが好きであったため、道具を買って天気の良い日は良く出かけていました。釣り場で知り合いになった方もいて、楽しいオフの時間を過ごすことが出来ました。またすばらしい景色が車で少し移動しただけで見られ、煮詰まったときなど一人静かに時間を過ごすこともできました。

人・物・環境全てにおいて、島前病院はすばらしい病院です。また日々進化し続ける病院です。今後予防医療にもより力を入れ、(経営的には問題でしょうが)皆が健康になり、今後病院が暇になるようなことが来る日を心より祈りつつ、締め言葉とさせていただきます。

2年間本当にお世話になりました。

斎藤亮平





3. 訪問看護について

隠岐島前病院では在宅で生活している患者さんにも「訪問看護」という形で関わらせていただいています。入院治療によって病状が安定・改善し退院できることになる。「無事に退院できて良かった」と普通ならなりますよね。でも、退院しても「今までのような生活ができるのか・・・」「一人暮らし・・・」「素人だけでの介護は・・・」などと不安要素は色々あるようです。そこで、訪問看護師の出番です！

現在、4人の看護師が訪問看護に携わっており、24時間体制で休日・夜間・早朝問わずに対応しています。病気や障害があっても住み慣れた自宅で安心して暮らせるように支援しています。

実際にどんな支援をしているのか紹介します。13年間妻の介護のもと自宅で療養生活を送っている患者さんには週に3回、訪問看護に伺っています。訪問して行うことは一般状態の観察（血圧・体温測定、呼吸状態など）、清潔ケア（全身清拭、洗髪、手浴、爪切り）、排泄ケア（オムツ交換）、ショク創ケア（床ずれの防止・処置）、口腔ケア（歯磨き）などです。その他、病状に変化があり点滴治療などが必要となれば、毎日、点滴に通います。

入浴介助などのケアを必要とする方のみが対象ではありません。一人暮らしで生活に不安を抱えている方の退院後の様子を伺いに行くこともあります。もちろん、病院ではなく自宅で人生の最期を迎えたいと希望される方がいれば、本人の希望・ご家族の看取りのサポートもさせていただいています。このように、在宅での看護が必要だと情報が入れれば訪問看護はいつでも在宅にむかいます。

島前病院で働くようになって2年が過ぎました。私は病棟勤務の経験しかなく訪問看護に一人で伺うことに不安がありました。それは、自分一人で患者さんの病状を把握し対処しなければならず責任が大きいから。私にそんな判断ができるのかと自信がありませんでした。でも、実際は違いました。何か判断に困ることがあれば、電話連絡や病院に一旦持ち帰ることで医師・先輩看護師が相談にのってくれる。訪問先では看護師一人で看護をしているけど、後には多くの支えてくれるスタッフがいました。そう思うと、私も自信をもって看護できます。これからも訪問看護を通じて地域医療・看護をもっともっと学んでいきたいと思っています。

看護師 前田小百合





4. 外来にて

はじめに東北地方太平洋地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

ほかほか陽気になってきた今日この頃、心がほっこりする外来での出来事を書いてみようと思いました。

院長先生が被災地から帰って来た翌日の外来での事です。診察室に入ってくる患者さん皆さんが初めに発する言葉が院長先生に対しての労いの言葉でした。本当でしたら予約日の診察、前回の診察日か今日までの変化や症状など先生に伝える事が多くあると思います。がそうではなく、「労いの言葉」・・・その言葉に対して「西ノ島代表として行って来た。島の人や病院スタッフのおかげ」という返答・・・この会話やその場の雰囲気、心がほっこりする空気が流れているのを感じました。これぞ「信頼関係」なんだと思いました。

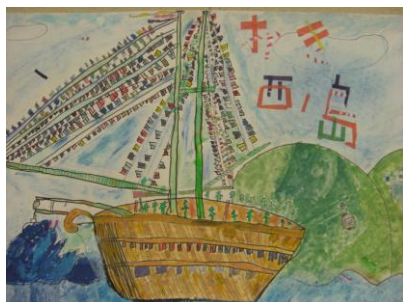
看護師になって十数年、この島に来て半年になりますが、看護師としてどうあるべきか、何が必要なのか、人としてどうあるべきかを改めて学ばせて頂いていると思います。心配り、心配り、言葉のあたたかさなど・・・毎日が学びです。皆さん、ありがとうございます。

看護師 新里礼子



5. おわりに

今、病院の廊下にはボランティアの方によって絵が飾られています。小学生の描いた絵だったり、一般の方が描いた絵手紙だったり。その中に訪問看護で知り合った方が描いた絵を見つけました。その方はもう亡くなられましたが、訪問看護で伺っていた頃の事を思い出しくなりました。1回出会った方との縁はいつまでも続くものなんですね。縁を大切に・・・そう思いながら毎日を過ごしています。



隠岐広域連合立 隠岐島前病院

〒648-0303

島根県隠岐郡西ノ島大字美田 2071-1

電話番号

08514-7-8211

Fax 番号

08514-7-8702

電子メール（看護部）

oki.ns.dozen@gmail.com